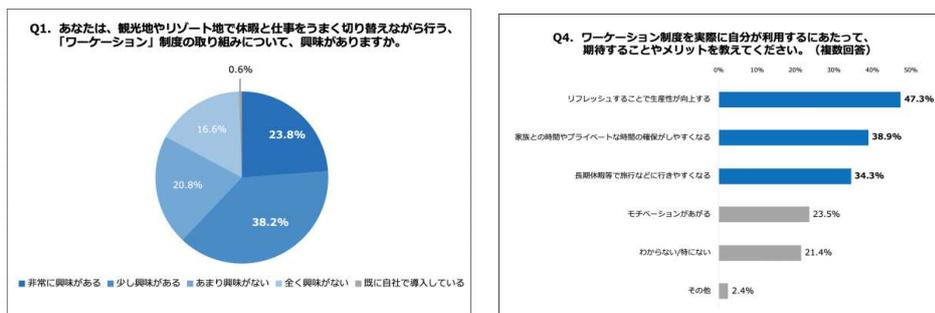


c. ワークেশョンを促す第一歩を

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、テレワークやワークেশョンという言葉が注目されました。

昨年実施された日本旅行の調査では、自社での「ワークেশョン」制度の導入に興味を持つ会社員は6割に及びました。



出典：会社員・経営者・自治体職員対象「ワークেশョン」に関する考え方・取り組みの実態調査を実施 ～ 会社経営者の約半数がワークেশョン導入に興味あり ～ 日本旅行調べ

(https://www.nta.co.jp/news/2020/_icsFiles/afiedfile/2020/08/31/workation.pdf)

更に、同調査ではワークেশョンのメリットとして47.3%がリフレッシュすることで生産性が向上すると回答しています。

他の地方自治体に先行して「ワークেশョンといえば、鹿児島市」という意識付けの第一歩として、鹿児島市の全公園で無料Wi-Fiを設置し、県外からの観光客だけでなく、県内で働く人も身近にワークেশョンが出来る環境を整備します。

d. シビックプライド育成の促進

自分たちでまちづくりをしているという意識付けができるようなイベントを支援し、市民の発信に対する意識改革を促します。

(例：地元の人向けの歴史散策や名所めぐり、企業のインターンシップ受け入れ支援をし、若者や学生の観光をテーマとした教育機会の充実等)

e. 社用車のカーシェア化

鹿児島市内の企業の車両を、使用していない時間はカーシェアできる仕組みを作り、観光客がタイムリーにレンタルできる車を検索できるアプリを開発します。

f. エコツーリズムの促進及びユニークでインパクトのある条例策定

自然保護や景観保護の観点から、人々の興味を引くような他にはないインパクトのある条例を策定します。